

中国の産業構造の高度化とWTO加盟に伴う
市場開放のインパクトに関する調査研究

(報告書の概要)

- 08年から胡錦濤政権は2期目に入り、ポスト胡錦濤政権の人事と現在の経済成長を持続させる政策基盤作りはその使命である。3月に開かれた全人代でポスト胡錦濤の有力な後継者習近平と李克強がそれぞれ国家副主席と筆頭第1副首相に選任された。同時に、江沢民色の強い曾慶紅が引退させられた。これから胡錦濤政権の独自色をいかに出していくかは注目を集めている。
- 胡錦濤政権は江沢民政権の成長一辺倒の路線を方針転換させ、環境に配慮した「科学的発展観」を打ち出し、所得格差を縮小することを目的に、「和諧社会」（調和の取れた社会）作りを提唱している。
- 結論的にいえば、中国経済は過去30年間の発展を経て、すでに世界経済をけん引するエンジンになりつつある。日本にとって中国は工場であると同時に、市場でもある。問題は様々なリスクに直面する日本企業の対中直接投資がその投資戦略を再構築する必要がある。
- 以上のような問題意識を踏まえ、本調査研究では、中国の市場開放と産業構造の高度化を軸に、中国経済の内実を考察し、新たな日中関係の構築を考案することにする。

(報告書の主要構成)

- 2期目の胡錦濤政権の政策課題
- 中国における資金循環の特徴と課題
- 中国経済のサステナビリティとリスク要因
- 経済成長と中国社会構造の変化
- 中国の外資導入政策の変化と今後の展望